

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	科目名	世界史 A	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年
科目の概要と目標	近現代を中心とする世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性、現代世界の特質や諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。						
教科書	世界史 A 新訂版 (実教出版)						
副教材	最新世界史図説タペストリー 二十訂版 (帝国書院)						
単元および学習内容				学習到達目標			
<p>第Ⅰ部 ユーラシアの諸文明と交流</p> <p>序章 文明のはじまり</p> <p>第1章 ユーラシアの諸文明の特質</p> <p>1 西アジア世界・イスラーム世界</p> <p>2 ヨーロッパ世界</p> <p>3 南アジア世界・東南アジア世界</p> <p>4 東アジア世界・内陸アジア世界</p> <p>第2章 ユーラシアの交流</p> <p>1 海と陸の交流</p> <p>2 ヨーロッパ商業圏とモンゴル帝国</p> <p>第Ⅱ部 結びつく世界と日本</p> <p>第3章 一体化に向かう世界</p> <p>1 世界の一体化の第一歩</p> <p>2 ルネサンスと宗教改革</p> <p>3 ヨーロッパの主権国家体制</p> <p>第4章 アジアの繁栄と世界</p> <p>1 アジアの繁栄</p> <p>2 世界経済体制の形成</p> <p>第Ⅲ部 近代のヨーロッパ・アメリカと世界の変動</p> <p>第5章 19世紀の世界の一体化と日本</p> <p>1 産業革命と工業化社会の成立</p> <p>2 アメリカ独立戦争</p> <p>3 フランス革命とナポレオン戦争</p> <p>4 ウィーン体制とその崩壊</p> <p>5 ヨーロッパ国民国家の発展</p> <p>6 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変動</p> <p>7 東アジアの変容と日本の近代化</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・文明成立の過程における特徴を理解することができる。</li> <li>・世界の様々な地域の風土と諸民族、宗教の成立などの歴史を学び、各地域世界の特質を理解することができる。</li> <li>・遊牧民やムスリム商人、中国商人の活動やモンゴル帝国の拡大・成長に伴うユーラシアの諸地域を結ぶ海と陸のネットワークの形成と成長の歴史を学び、その特質を理解することができる。</li> <li>・大航海時代における各地域の接触と交流の歴史を学び、世界の一体化への動きを理解することができる。</li> <li>・ルネサンスや宗教改革の歴史的意義を理解することができる。</li> <li>・ヨーロッパ主権国家体制の特徴を理解することができる。</li> <li>・14～18世紀アジア、とりわけ中国とイスラーム諸国家の政治や社会の特徴を理解することができる。</li> <li>・西欧諸国間の植民地争奪競争や大西洋三角貿易の展開の歴史について学び、世界経済体制の形成の特質を理解することができる。</li> <li>・18世紀から19世紀の産業技術の進展、政治・経済の新体制の成立を学び、ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民国家形成の過程を理解することができる。</li> <li>・ヨーロッパのアジア進出について、植民地化の過程での抵抗や挫折、伝統文化の変容、その中で日本の対応を学び、19世紀の世界の一体化とその特質を理解することができる。</li> </ul>			

<p>第IV部 地球社会と日本</p> <p>第6章 二つの世界大戦</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 激変する社会と帝国主義</li> <li>2 第一次世界大戦とロシア革命</li> <li>3 戦間期のヨーロッパとアメリカ</li> <li>4 民族運動の高まり</li> <li>5 第二次世界大戦</li> </ol> <p>第7章 第二次世界大戦後の世界と日本</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 冷たい戦争</li> <li>2 アジア・アフリカ諸国の独立と混乱</li> <li>3 多極化の進展と冷戦体制の崩壊</li> </ol> <p>第8章 現代の世界</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 統合へ向かうヨーロッパ</li> <li>2 アメリカ・ラテンアメリカの動向</li> <li>3 西アジア・アフリカの混迷</li> <li>4 南アジア・東南アジア・オセアニアの動き</li> <li>5 大国化する中国と東アジアの変動</li> </ol> <p>終章 持続可能な世界をめざして</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 巨大技術と人間</li> <li>2 人が人らしく生きるために</li> <li>3 環境問題と私たち</li> <li>4 なお続く紛争</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次産業革命や企業・国家の巨大化による列強の帝国主義的動向の過程を理解することができる。</li> <li>・二つの世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考察することができる。</li> <li>・第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立から、冷戦構造の多極化、核軍拡競争を経ての冷戦体制の崩壊やその後の地域紛争の勃発の過程について理解することができる。</li> <li>・アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立について理解し、独立後の課題について理解することができる。</li> <li>・ヨーロッパにおける地域統合の歴史を学び、地域的経済統合の歴史的意義について理解することができる。</li> <li>・冷戦終結後の諸地域世界の動向について理解することができる。</li> <li>・現代世界が抱える諸課題について理解し、解決の糸口について考察することができる。</li> </ul>	
<p>評価の 観点と 方法</p>	<p>関心・意欲・態度</p>	<p>授業中の態度や発問応答、授業ノート取り組み状況、課題の提出状況等</p>
	<p>思考・判断・表現</p>	<p>授業で行う課題、定期考査等</p>
	<p>資料活用の技能</p>	<p>授業で行う課題、定期考査等</p>
	<p>知識・理解</p>	<p>授業中の発問応答、授業で行う課題、定期考査等</p>

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	科目名	世界史 B	単位数	7	対象学年 コース・類型	第2・3学年 英語コース・文系
科目の概要と目標	古代から現代にわたる世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。						
教科書	詳説世界史 改訂版 (山川出版社)						
副教材	最新世界史図説タペストリー 二十訂版 (帝国書院) 新世界史研究ノート応用編 (啓隆社) 新世界史要点ノート応用編 (啓隆社) 五訂 必携世界史用語 (実教出版) 世界史重要語句 Check List (啓隆社) 30日完成スピードマスター世界史問題集 (山川出版社)						
単元および学習内容				学習到達目標			
序章 先史の世界 第1章 オリエンと地中海世界  第2・3章 アジア・アフリカの古代文明 内陸アジア世界・東アジア世界の形成				<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の進化の過程や諸文明の成立の特徴を理解する。</li> <li>・西アジア世界、地中海世界の地理的特質やそこで発生した諸文明の特質を理解する。</li> <li>・日本を含む東アジア、東南アジア、南アジア、内陸アジア世界、アメリカ大陸の地理的特質や、それぞれの世界の文明の形成過程を理解する。</li> </ul>			
第4章 イスラーム世界の形成と発展  第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展  第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開				<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム世界の成立の背景や、その発展と拡大の過程を理解する。</li> <li>・地中海世界解体後の東西ヨーロッパ世界の形成、変容の過程をキリスト教の拡大とともに理解する。</li> <li>・内陸アジア世界におけるトルコ人の活動とイスラーム化の進展を理解する。</li> <li>・遊牧諸民族の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替、モンゴル帝国の興亡やその世界的影響を理解する。</li> </ul>			
第7章 アジア諸地域の繁栄  第8章 近世ヨーロッパ世界の形成  第9章 近世ヨーロッパ世界の展開  第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立				<ul style="list-style-type: none"> <li>・明・清帝国と朝鮮や日本との関係、東南アジア、イスラーム世界の動向から、アジア諸地域の繁栄の特質を理解する。</li> <li>・大航海時代、ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立など近世ヨーロッパ世界の形成の過程を理解する。</li> <li>・ヨーロッパの主権国家体制の展開の過程を、それを支えた重商主義政策と関連付けながら理解する。</li> <li>・ヨーロッパ諸国の植民地争奪競争と大西洋三角貿易がもたらした国際的な枠組みを理解する。</li> <li>・産業革命の背景と展開、産業資本主義体制の確立とその影響について理解する。</li> <li>・アメリカ独立革命やフランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解する。</li> </ul>			

<p>第11・12章 欧米における近代国民国家の発展 アジア諸地域の動揺</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米における近代国民国家の発展や、ヨーロッパ勢力の海外進出に伴うアジア諸国の動揺・改革から両世界の動向を理解する。</li> </ul>	
<p>第13章 帝国主義とアジアの民族運動</p> <p>第14章 二つの世界大戦</p> <p>第15章 冷戦と第三世界の独立</p> <p>第16章 現在の世界</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝国主義の特質と、19世紀後半から20世紀初頭の支配・従属関係を伴う一体化と国際社会の変容を理解する。</li> <li>・二つの世界大戦や民族運動から、20世紀前半の各地域世界の動向と国際社会の特質を理解する。</li> <li>・米ソ冷戦期の世界の動向を理解する。</li> <li>・東欧諸国の民主化と冷戦の終結、ソ連の解体、地域統合などの1970年代以降の動向を理解する。</li> <li>・東欧社会主義圏の消滅やソ連解体以降の経済のグローバル化の進展について理解する。</li> <li>・途上国の民主化の進展とアジア社会主義国家の変容を理解する。</li> <li>・地域紛争や同時多発テロ後の戦争などの解決や軍縮の試みについて理解する。</li> <li>・情報技術・科学技術の発達と現代文明の抱える危機、現代思想や文化の特徴について理解する。</li> </ul>	
<p>評価の 観点と 方法</p>	<p>関心・意欲・態度</p>	<p>授業中の態度や発問応答、授業ノート取り組み状況や課題提出状況等</p>
	<p>思考・判断・表現</p>	<p>授業で行う課題、定期考査等</p>
	<p>資料活用の技能</p>	<p>授業で行う課題、定期考査等</p>
	<p>知識・理解</p>	<p>授業中の発問応答、授業で行う課題、小テスト、定期考査等</p>

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	科目名	日本史 A	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年 英語コース・文系
科目の 概要と 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近現代史学習を通し、社会や文化の変化を捉える。</li> <li>・ 資料を活用し、歴史的背景を理解する。</li> <li>・ 基本的な事柄や、重要事項の因果関係の学習を通し、社会的考察力を身に付ける。</li> </ul>						
教科書	日本史 A 現代からの歴史（東京書籍）						
副教材	日本史のライブラリー（東京法令出版） 日本史用語集（山川出版社）						
単元および学習内容				学習到達目標			
私たちの時代と歴史				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これから学ぶ近現代の歴史的事象と現代を結びつけ、歴史を学ぶ意義に気づく。</li> </ul>			
国際環境の変化と明治維新 1 幕藩体制の動揺と世界の動向 2 開国と倒幕運動 3 明治維新とその諸改革				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 19世紀の世界情勢の変化と列強からのアプローチへの日本の対応を理解する。</li> <li>・ 開国と幕藩体制の崩壊を内外情勢の具体的な動きの中で理解する。</li> <li>・ 明治維新により新政府が強力な中央集権体制の樹立を目指した過程を通じて、明治政府の役割を理解する。</li> </ul>			
近代国家の成立と国際関係の推移 1 自由民権運動 2 大日本帝国憲法の成立と条約改正 3 日清戦争と日露戦争				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由民権運動の基盤となった思想や社会的基盤を把握し、その推移を理解する。</li> <li>・ 憲法制定へ向かう事情を考察し、内閣制度などの諸制度の整備を経て制定された大日本帝国憲法から、明治政府の性格や憲法の歴史的意義について考える。</li> <li>・ 条約改正と法典の整備により日本が近代国家としての体制を整えた経緯を理解する。</li> <li>・ 日本の大陸政策が清の朝鮮政策やロシアの極東政策と対立するに至った事情を世界的視野から理解する。</li> </ul>			
近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 1 産業革命と大衆文化 2 第一次世界大戦と日本 3 政党政治の推移と軍国化 4 太平洋戦争と日本 5 近代の探究				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業革命の進展と第一次世界大戦を中心とする世界情勢の下で、日本の極東での行動や大戦後の国際社会での地位について理解する。</li> <li>・ 第一次護憲運動を中心とする政党と官僚・軍部・軍閥との対立抗争から大正デモクラシーとよばれる潮流に至る過程を理解する。</li> <li>・ 満州事変から日中戦争・太平洋戦争の内容を理解し、日本の中国侵略を通じて形成された戦時体制と国際平和の大切さについて考える。</li> </ul>			
現代の日本と世界 1 戦後復興と諸改革 2 冷戦と55年体制 3 高度経済成長の時代 4 安定成長期から現代へ				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連合国軍による占領と、その主導の下に進められた非軍事化と民主化政策について理解する。</li> <li>・ 戦後の国際関係の変化に留意しながら、55年体制成立後の国内政治の変遷について理解する。</li> <li>・ 高度経済成長を経て、その一方で引き起こされた公害などの生活被害についての理解を深め、現代社会のあり方を考察する。</li> </ul>			
評価の 観点と 方法	関心・意欲・態度	授業への取り組み状況、課題の提出状況					
	思考・判断・表現	授業中の発問応答・発表、定期考査					
	資料活用の技能	授業中の作業学習・分析、定期考査					
	知識・理解	定期考査					

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	科目名	日本史 B	単位数	7 (英文) 5 (理)	対象学年 コース・類型	第2・3学年
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>通史学習を通し、社会や文化の変化を大きく捉える。</li> <li>資料を活用し、歴史的背景を理解する。</li> <li>基本的な事柄や、重要人物の事績の学習を通し、社会的考察力を身に付ける。</li> </ul>						
教科書	詳説日本史 改訂版 (山川出版社)						
副教材	改訂版 詳録新日本史史料集成 (第一学習社) 新日本史要点ノート応用編 (啓隆社) 日本史用語集改訂版 A・B 共用 (山川出版社) 歴史資料館日本史のライブラリー (東京法令出版) ポテンシャル日本史基礎学力養成編 (さんぺい出版) 日本史重要語句 Check List (啓隆社) 新日本史研究ノート応用編 (啓隆社)						
単元および学習内容				学習到達目標			
原始・古代国家の社会・文化と東アジア 1 旧石器時代 2 縄文時代 3 弥生時代 4 古墳時代 5 奈良時代 6 平安時代				<ul style="list-style-type: none"> <li>旧石器時代から縄文・弥生にいたる過程を、遺跡や遺物を元に理解する。</li> <li>古墳文化の成立・拡大をヤマト政権の支配拡大と関連して理解する。</li> <li>律令制度の進展と衰退を、政争や土地制度と関連させて理解する。</li> <li>荘園公領制の成立を、資料を通して理解する。</li> </ul>			
中世の社会・文化と東アジア 1 鎌倉時代 2 室町時代				<ul style="list-style-type: none"> <li>武家政権成立の過程を、関連する事件を通して理解する。</li> <li>武家政権の支配の仕組みを、土地との関連を踏まえて理解する。</li> </ul>			
近世の社会・文化と国際社会 1 織豊政権 2 江戸時代				<ul style="list-style-type: none"> <li>荘園公領制の消滅と新秩序の成立を重要人物の政策を踏まえて理解できる。</li> <li>江戸幕府の政治組織、経済基盤などを理解し、幕藩体制下の封建社会を理解する。</li> <li>江戸時代の外交関係を通して、国際社会の中に日本が組み入れられていく過程を理解する。</li> <li>経済環境の変化と、封建体制の終焉の関係を理解する。</li> </ul>			
近代日本の形成と東アジア 1 明治時代				<ul style="list-style-type: none"> <li>近代社会への移行と、経済、政治、文化との関係を理解できる。</li> <li>啓蒙思想の影響による自由民権運動の進展と、国家主義への移行を、重要な事件を踏まえて理解する。</li> </ul>			
二つの世界大戦と日本 1 大正時代 2 昭和時代 (戦前)				<ul style="list-style-type: none"> <li>大正デモクラシーと政党政治の関係を、重要な出来事を踏まえて理解する。</li> <li>国際社会における日本の変化を、東アジア、欧米との関係を踏まえて理解する。</li> <li>軍国主義の強化を、経済問題との関係を踏まえて理解する。</li> </ul>			
第二次世界大戦後の日本と世界 1 昭和時代 (戦後)				<ul style="list-style-type: none"> <li>戦後の民主化を、占領政策との関係を踏まえて理解する。</li> <li>経済発展の光と影を、政治、文化の出来事と合わせて理解する。</li> <li>石油危機後の政治と経済の変化を理解する。</li> </ul>			
評価の観点と方法	関心・意欲・態度	授業への取り組み状況、課題の提出状況					
	思考・判断・表現	授業中の発問応答・発表、定期考査					
	資料活用の技能	授業中の作業学習・分析、定期考査					
	知識・理解	定期考査					

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	科目名	地理 A	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年 英語コース・文系
科目の 概要と 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的な問い方や調べ方、見方や考え方の基礎を身につける。</li> <li>・いろいろな事例を通して地理的事象を見だし、それを基に課題を設定し追究する。</li> <li>・現代世界に生起している課題を地理的に追求し、考察する。</li> </ul>						
教科書	高等学校 新地理 A (帝国書院) 地歴高等地図 ―現代世界とその歴史的背景― (帝国書院)						
副教材	新詳地理資料 COMPLETE2022 (帝国書院)						
単元および学習内容				学習到達目標			
第1部 世界の諸地域の姿と地球的課題 1章 地球儀や地図からとらえる現代社会 1節 地球上の位置と国家 2節 グローバル化が進む世界				<ul style="list-style-type: none"> <li>・大陸と海洋の分布、緯度と経度、時差のしくみと求め方、さまざまな国境、国と国との結びつきの変化、地域的枠組みと経済機構、多様な国家の共存と国際連合における内容を理解することができる。</li> <li>・航空交通網の発達と地域差、通信の発達と結びつく世界、情報化の進展と地域差、地球規模の人々の移動などと、地域の結びつきにおける内容を理解し、結びつきから見た世界のとらえ方を考察することができる。</li> </ul>			
2章 人間生活を取り巻く環境 1節 人々の生活と地形 2節 人々の生活と気候 3節 人々の生活と産業・文化				<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境と社会環境、地形を形づくる力、地形をかえる力、生活と山地・平野の地形とのかかわり、生活と海岸の地形とのかかわり、地形の改変と防災対策における内容を理解することができる。</li> <li>・気候、農村の変化、変化する町なみなど、多様な自然環境における内容を理解することができる。</li> </ul>			
3章 世界の諸地域の生活と文化 1節 中国の生活・文化 2節 韓国の生活・文化 3節 東南アジアの生活・文化 4節 南アジアの生活・文化 5節 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化 7節 ヨーロッパの生活・文化 8節 ロシアの生活・文化 9節 アングロアメリカの生活と文化 10節 ラテンアメリカの生活・文化 11節 オーストラリアの生活・文化				<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地域の生活と文化に関する内容を理解するとともに、その地域が抱える課題について考察することができる。</li> </ul>			

<p>4章 地球の課題と私たち</p> <p>1節 複雑にからみ合う地球の課題</p> <p>2節 世界の環境問題</p> <p>3節 世界の資源・エネルギー問題</p> <p>4節 世界の人口問題</p> <p>5節 世界の食料問題</p> <p>6節 世界の都市・居住問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南北の格差と地球の課題、人口爆発と少子高齢化、インドの人口問題、スウェーデンの人口問題、バングラデシュの食料問題、アメリカ合衆国の食料問題、メキシコシティの都市問題、ロンドンの都市問題、銅に頼るチリの経済、デンマークの風力発電の事例を通し、地球規模の課題における背景を考察し理解することができる。</li> </ul>	
<p>第2部 身近な地域の課題</p> <p>1章 身近にあるさまざまな地図</p> <p>2章 日本の自然環境と防災</p> <p>3章 身近な地域の課題と地域調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や位置情報について理解するとともに、その活用方法について考え、情報を地図化することができる。</li> <li>・日本の自然環境について理解し、火山、地震、風水害から身を守ったり、被害を軽減したりする方法や、身近な地域の防災について自分たちにできることなどを考察することができる。</li> <li>・身近な地域の課題を地理的事象として捉え、調査・追究し、まとめることができる。</li> </ul>	
<p>評価の 観点と 方法</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>資料活用の技能</p> <p>知識・理解</p>	<p>授業への取り組み状況、課題の提出状況</p> <p>授業中の発問・発表、定期考査</p> <p>授業中の作業学習・分析、定期考査</p> <p>定期考査、各種テスト</p>



令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	科目名	地理 B	単位数	7 (英文) 5 (理)	対象学年 コース・類型	第2・3学年
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球儀や様々な地図の活用を通して、地図の有用性に気付くとともに、地理的技能を身に付ける。</li> <li>世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活とのかかわりなどについて考察するとともに、現代世界の環境問題を大観する。</li> <li>世界の資源・エネルギーや農業、工業などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察するとともに、現代世界の資源・エネルギー、食料問題を大観する。</li> </ul>						
教科書	新詳地理 B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)						
副教材	新詳地理資料 COMPLETE (帝国書院) 新地理の研究 (啓隆社) 地理統計 Plus (帝国書院)						
単元および学習内容				学習到達目標			
<b>第 I 部</b> さまざまな地図と地理的技能 <b>1 章</b> 地理情報と地図 1 節 地図の発達 2 節 地図の種類とその利用 3 節 地理情報の地図化  <b>2 章</b> 地図の活用と地域調査				<ul style="list-style-type: none"> <li>現代世界の地図について、さまざまな時代や種類の地図の読図などの活動を通して、各時代の人々の世界観を捉え、現代の地図や身近な地図の有用性に気づくことができる。</li> <li>地図の種類とその利用について、球体としての地球の特徴を捉え、球体を地図に表現した場合の特性や、時差の求め方を通して、現代世界の地理的事象を捉える地理的技能を身につける。</li> <li>地理情報の地図化について、地理情報の統計地図化などの活動を通して、地図の有用性に気づき、現代世界の地理的事象を捉える地理的技能を身につけることができる。</li> </ul>			
<b>第 II 部</b> 現代世界の系統地理的考察 <b>1 章</b> 自然環境 1 節 世界の地形 2 節 世界の気候 3 節 日本の自然の特徴と人々の生活 4 節 環境問題  <b>2 章</b> 資源と産業 1 節 世界の農林水産業 2 節 食料問題 3 節 世界のエネルギー・鉱産資源 4 節 資源・エネルギー問題 5 節 世界の工業 6 節 第3次産業 7 節 世界を結ぶ交通・通信 8 節 現代世界の貿易と経済圏				<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の地形について、営力的な視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察するとともに、災害と恩恵など人間生活との関わりを考察することができる。</li> <li>世界の気候について、気候要素と気候因子の関係からその成り立ちを考察し、それぞれの気候区の特徴と農業など人間生活への影響を考察することができる。</li> <li>日本の自然の特徴と人々の生活について、地形や気候の特徴と、これによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察することができる。</li> <li>環境問題について、世界の環境問題の成因や特徴と対策、地域的な分布を大観し、さまざまな環境問題のうちから地球温暖化、森林破壊、砂漠化について事例を考察する。日本の環境問題の特徴と対策について考察することができる。</li> <li>世界の農林水産業について、農業地域区分や、現代世界の農林水産業の現状と課題及び世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察することができる。</li> <li>食料問題について、世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国、先進国、日本についての事例を考察することができる。</li> <li>世界のエネルギー・鉱産資源について、エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察することができる。</li> <li>資源・エネルギー問題について、現代世界の資源・エネルギー問題を大観し、世界の資源をめぐる問題、エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題を考察することができる。</li> <li>世界の工業について、工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察することができる。</li> </ul>			

<p>3章 人口、村落・都市</p> <p>1節 世界の人口</p> <p>2節 人口問題</p> <p>3節 村落と都市</p> <p>4節 都市・居住問題</p> <p>4章 生活文化、民族・宗教</p> <p>1節 世界の衣食住</p> <p>2節 民族と宗教</p> <p>3節 現代世界の国家</p> <p>4節 民族・領土問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察することができる。</li> <li>・交通や通信の発達による一体化と地域差を考察することができる。</li> <li>・世界貿易や経済圏の現状と課題や、世界のなかでの日本の貿易や経済の現状と課題を考察することができる。</li> <li>・世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察することができる。</li> <li>・世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察することができる。</li> <li>・村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察することができる。</li> <li>・世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察することができる。</li> <li>・衣食住を取りあげ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察することができる。</li> <li>・民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察することができる。</li> <li>・国境と領域のきまりや様々な国家の分類について考察することができる。</li> <li>・世界の民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察することができる。</li> </ul>
<p>第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察</p> <p>1章 現代世界の地域区分</p> <p>2章 現代世界の諸地域</p> <p>1節 地誌の考察方法</p> <p>2節 東アジア</p> <p>3節 東南アジア</p> <p>4節 南アジア</p> <p>5節 西アジアと中央アジア</p> <p>6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ</p> <p>7節 ヨーロッパ</p> <p>8節 ロシア</p> <p>9節 アングロアメリカ</p> <p>10節 ラテンアメリカ</p> <p>11節 オセアニア</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域概念や地域区分の目的、意義を理解し、有用性に気づくことができる。</li> <li>・東アジアについて、地形と気候、中国の民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、朝鮮半島の成り立ち、韓国の産業、隣国との交流という多様な事象を項目ごとに整理して考察することができる。</li> <li>・東南アジアについて、自然、歴史と文化・民族、農業と変化、ASEANと工業、ASEAN諸国の変化と諸課題という多様な事象を項目ごとに整理して考察することができる。</li> <li>・南アジアについて、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの農業と農村、工業・IT産業という多様な事象を項目ごとに整理して考察することができる。</li> <li>・西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目し、自然、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と産業の面において、類似的な性格の二つの地域を比較して考察することができる。</li> <li>・北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、気候と植生、歴史的背景と文化、一次産品への依存、生活の変化と他地域との結びつきの面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察することができる。</li> <li>・ヨーロッパについて、気候と大地、成り立ち、域内の結びつき、農業と共通農業政策、移り変わる工業、これからのヨーロッパという多様な事象を項目ごとに整理して考察することができる。</li> <li>・ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境に着目し、歴史と社会の変化、変化した産業、極東ロシアと日本の結びつきという多様な事象を項目ごとに整理して考察することができる。</li> </ul>

3章 現代世界と日本		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アングロアメリカについて、自然環境、移民と発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダという多様な事象を項目ごとに整理して考察することができる。</li> <li>・ラテンアメリカについて、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察することができる。</li> <li>・オセアニアについて、一つの大陸と太平洋の島々、移民の歴史と多文化社会、強まるアジアとの結びつき、輸出される農畜産物という特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察することができる。</li> <li>・現代世界における日本の特色について、多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>
評価の 観点と 方法	関心・意欲・態度	授業への取り組み状況、課題の提出状況
	思考・判断・表現	授業中の発問・発表、定期考査
	資料活用の技能	授業中の作業学習・分析、定期考査
	知識・理解	定期考査、各種テスト

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	理科	科目名	物理基礎	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年 理系
科目の概要と目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
教科書	改訂版 物理基礎 (数研出版)						
副教材	物理基礎学習ノート (数研出版) 四訂版リードα物理基礎・物理 (数研出版) 物理実験テキスト (富山県理化学会)						
単元および学習内容				学習到達目標			
第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 ・速度 ・加速度 ・落体の運動 第2章 運動の法則 ・力のつりあい ・運動の法則 第3章 仕事と力学的エネルギー ・仕事 ・運動エネルギーと位置エネルギー ・力学的エネルギーの保存				<ul style="list-style-type: none"> <li>変位、速度、加速度などのベクトル量の考え方を理解する。</li> <li>基本的な等速直線運動や等加速度直線運動について理解する。</li> <li>物体に作用する力・質量・加速度の関係を理解し、運動方程式を立てることができる。</li> <li>仕事とエネルギーの概念およびそれら関係を理解し、力学的エネルギーが保存される現象について理解する。</li> </ul>			
第2編 熱 第1章 熱とエネルギー ・熱と熱量 ・熱と物質の状態				<ul style="list-style-type: none"> <li>熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解する。</li> <li>気体の状態変化から熱と仕事の関連性と熱力学第1法則を理解する。</li> </ul>			
第3編 波 第1章 波の性質 ・波と媒質の運動 ・波の伝わり方 第2章 音 ・音の性質 ・発音体の振動と共鳴・共振				<ul style="list-style-type: none"> <li>波の発生原理と進み方、重ね合わせの原理と定常波について理解する。</li> <li>波の性質を基にした音波の伝わり方、弦・気柱などの発音体の振動について理解する。</li> </ul>			
第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 ・電気の性質 ・電流と電気抵抗 ・電気とエネルギー 第2章 交流と電磁波 ・交流 ・電磁波				<ul style="list-style-type: none"> <li>電気の基本的性質について理解し、電流、電気抵抗とその接続、電流の熱作用について理解する。</li> <li>交流および電磁波の基本的性質について理解する。</li> </ul>			
第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 第2章 物理学が拓く世界				<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちの生活の中で物理がどのように関わっているかを理解する。</li> </ul>			
評価の観点と方法	関心・意欲・態度		授業への取り組み、提出物、観察・実験中の協調性				
	思考・判断・表現		授業中の発問や発表、定期考査				
	観察・実験の技能		実験技術、実験・観察のまとめ				
	知識・理解		定期考査、小テスト				

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の多様性を踏まえつつ、生物に共通する概念や原理・法則を理解する。</li> <li>・生命現象を通して、日常生活や社会について考えるために必要な科学的素養を高める。</li> <li>・観察、実験を通して生物学的に探究する方法や態度を育む。</li> </ul>						
教科書	改訂版 新編 生物基礎 (数研出版)						
副教材	英文系 セミナー生物基礎 (第一学習社)、改訂版新編生物基礎準拠ノート教科書の整理 (数研出版) 理系 センサー総合生物 改訂版 (啓林館)						
単元および学習内容				学習到達目標			
第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき				<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物学を学習する上で重要な視点である生物の多様性と共通性について理解することができる。また、生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源を持つことに由来することを学び、さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを理解することができる。</li> <li>・原核細胞と真核細胞の観察を通して、顕微鏡の使い方やスケッチの方法などの基本操作を習得するとともに、観察経過や結果を的確に記録、整理し細胞の構造上の違いを科学的に探究する技能を身につける。</li> <li>・遺伝子の本体である DNA について、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解することができる。次に転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習し、さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて理解することができる。</li> </ul>			
第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境				<ul style="list-style-type: none"> <li>・多細胞生物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境(体内環境)であり、その体内環境がいかんしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのようなしくみがはたらき、どのように調節が行われているのかを、循環系・腎臓と肝臓・自律神経系と内分泌系、免疫との関連で理解することができる。</li> </ul>			
第3編 生物の多様性と形態系 第4章 植生の多様性と分布 第5章 生態系とその保全				<ul style="list-style-type: none"> <li>・植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて理解することができる。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気候と降水量によって決まることを、世界と日本のバイオームを取り上げて理解する。</li> <li>・生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解することができる。</li> </ul>			
評価の観点と方法	関心・意欲・態度		授業への取り組み、提出物、観察・実験中の協調性				
	思考・判断・表現		授業中の問答、定期考査				
	観察・実験の技能		実験技術、実験・観察のまとめ				
	知識・理解		定期考査、小テスト				

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の運動の合理的実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、運動の必要性を理解し、生涯を通して自己の能力に応じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</li> <li>・集団の中で規律ある行動をとる必要性を理解させる。</li> <li>・自己の体力・運動能力の現状を知ることにより、これからの体育活動の意欲を喚起する。</li> <li>・安全に留意し、運動の実践に必要な公正・協力・責任などの態度や行動を身につけさせる。</li> <li>・自己やグループの課題の解決を目指して、主体的に運動の仕方を考えることができるようにさせる。</li> <li>・豊かなスポーツライフを実現できるように理論を理解させる。</li> </ul>						
教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)						
副教材							
単元および学習内容				学習到達目標			
<b>集団行動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団行動のおもな行動様式を身に付ける。</li> <li>・機敏・的確に行動する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団行動のおもな行動様式を身に付け、機敏的確に行動することができる。</li> </ul>			
<b>体づくり運動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の3要素(持久力・スピード・筋力)を理解し、全身的な体力を養う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の3要素を理解して、自ら積極的に体力の向上を目指すことができる。</li> </ul>			
<b>陸上競技</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短距離走(50m走、100m走、200m走、リレー)</li> <li>・長距離走(1000m走、1500m走、駅伝)・跳躍競技</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目の特性を高め、自己記録を高めたりすることができる。</li> </ul>			
<b>球技(ソフトボール、キックベース)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、連係プレーなどの集団的技能や投打などの個人的技能を試合に活用する。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、連係プレーや投打の向上を目指し試合で活用することができる。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行うことができる。</li> </ul>			
<b>球技(サッカー)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、段階に応じた作戦を立て、チームの攻守のシステムを理解し練習をする。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、チームでの自己の役割を理解し、試合で生かすことができる。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行うことができる。</li> </ul>			
<b>球技(バレーボール、ソフトバレーボール)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、三段攻撃などチームの目標を立てて練習をする。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、チームの目標を立てて練習することができる。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行うことができる。</li> </ul>			
<b>球技(バスケットボール)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、攻守での自己の役割を理解し、チーム練習を試合に生かす。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、攻守での自己の役割を理解し、試合で生かすことができる。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行うことができる。</li> </ul>			
<b>器械運動(マット運動・とび箱)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の技の完成度を高める。</li> <li>・流れを意識した技の組み合わせを考え、発表する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件を変えた技や発展技をなめらかにできる。</li> <li>・動きに無駄がないように技を組み合わせる。</li> </ul>			
<b>武道(剣道)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を尊重し、礼儀正しく行う。</li> <li>・得意技を磨き、相手の動きに応じた攻防を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を尊重し、礼儀正しく行うことができる。</li> <li>・試合形式で、相手の動きに応じた攻防ができる。</li> </ul>			

ダンス（創作ダンス・フォークダンス）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的事象を体全体を使って表現することができる。</li> <li>・周りと協力して作品創作することができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージ課題からの発展</li> <li>・抽象的事象から作品を作る。</li> </ul>		
体育理論		<ul style="list-style-type: none"> <li>・合理的な動きを理解し、練習によって身につけたり、トレーニングによって向上させたりすることができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方</li> </ul>		
評価の 観点と 方法	関心・意欲・態度	日頃の授業への取り組みの様子
	思考・判断	日頃の授業への取り組みの様子
	運動の技能	実技試験
	知識・理解	日頃の授業への取り組みの様子

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2	対象学年 コース・類型	第3学年
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の運動の合理的実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、運動の必要性を理解し、生涯を通して自己の能力に応じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</li> <li>・集団の中で規律ある行動をとる必要性を理解させる。</li> <li>・自己の体力・運動能力の現状をすることにより、これからの体育活動の意欲を喚起する。</li> <li>・選択制授業において、メンバーの特性を生かしポジションを工夫し、システムなどを活用してゲームを楽しむ。</li> <li>・運動を計画的に進めていくうえで、チームや個人の課題を設定し、その課題を創意・工夫によって解決する力を養う。</li> <li>・豊かなスポーツライフを実現できるように理論を理解させる。</li> </ul>						
教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)						
副教材	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)						
単元および学習内容				学習到達目標			
体づくり運動				<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の3要素(持久力・スピード・筋力)を理解し、全身的な体力を養う。</li> </ul>			
陸上競技(短距離走、持久走)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目の特性を高め、自己記録を高めたりすることができる。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・50m走</li> <li>・100m走</li> <li>・200m走</li> <li>・1000m走</li> <li>・1500m走</li> </ul>							
選択球技(ソフトボール)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、連係プレーなどの集団的技能や投打などの個人的技能を試合に活用する。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、連係プレーなどの集団的技能や投打などの個人的技能を試合に活用する。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、連係プレーや投打の向上を目指し試合で活用することができる。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行うことができる。</li> </ul>			
選択球技(サッカー)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、段階に応じた作戦を立て、チームの攻守のシステムを理解し練習をする。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、段階に応じた作戦を立て、チームの攻守のシステムを理解し練習をする。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、チームでの自己の役割を理解し、試合で生かすことができる。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行うことができる。</li> </ul>			
選択球技(バレーボール)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、三段攻撃などチームの目標を立てて練習をする。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、三段攻撃などチームの目標を立てて練習をする。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、チームの目標を立てて練習することができる。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行うことができる。</li> </ul>			
選択球技(バスケットボール)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、攻守での自己の役割を理解し、チーム練習を試合に生かす。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、攻守での自己の役割を理解し、チーム練習を試合に生かす。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習技能を高め、攻守での自己の役割を理解し、試合で生かすことができる。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行うことができる。</li> </ul>			
選択球技(バドミントン)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本技能を高め、シングルスやダブルスの試合でその技能を生かす。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本技能を高め、シングルスやダブルスの試合でその技能を生かす。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本技能を高め、シングルスやダブルスの試合でその技能を生かすことができる。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行うことができる。</li> </ul>			
選択球技(ソフトテニス)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本技能を高め、パートナーとの連携での自己の役割を理解し、試合に生かす。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本技能を高め、パートナーとの連携での自己の役割を理解し、試合に生かす。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行う。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本技能を高め、パートナーとの連携での自己の役割を理解し、試合に生かすことができる。</li> <li>・ルールを理解し、協力して試合を行うことができる。</li> </ul>			



ダンス（フォークダンス）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>特徴的なステップを身に付け、全身を使って仲間とリズムカルに踊る。</li> </ul>		
体育理論		
<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かなスポーツライフの設計の仕方</li> </ul>		
評価の 観点と 方法	関心・意欲・態度	日頃の授業への取り組みの様子
	思考・判断	日頃の授業への取り組みの様子
	運動の技能	実技試験
	知識・理解	日頃の授業への取り組みの様子

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1	対象学年 コース・類型	第2学年
科目の概要と目標	<p>個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことを理解させる。</li> <li>生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することを理解させる。</li> <li>社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策について理解させる。</li> </ul>						
教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)						
副教材	現代高等保健体育ノート 改訂版 (大修館書店)						
単元および学習内容				学習到達目標			
思春期と健康 ・思春期の体や心と健康				・思春期における体の発達の特徴や、行動面・心理面の特徴を説明できる。			
性意識と性行動の選択 ・性意識や性的欲求の男女差と性行動				・性意識や性的欲求には男女差があることや、性に関する情報や性行動の選択のあり方を説明できる。			
結婚生活と健康 ・健康な結婚生活と家族の健康				・健康な結婚生活をいとなむためには心身の発達が欠かせないことを理解し、結婚生活と家族の健康づくりについて説明できる。			
妊娠・出産と健康 ・受精、妊娠、出産と健康				・受精・妊娠・出産のしくみがわかり、妊娠・出産期の健康のために、本人および周囲の人びとの留意点を説明できる。			
家族計画と人工妊娠中絶 ・家族計画と避妊法 ・人工妊娠中絶				・家族計画の意義を理解し、避妊法とその選択について説明できる。また人工妊娠中絶が女性の心身におよぼす影響を説明できる。			
加齢と健康 ・加齢現象と中高年期の健康				・加齢にともなう心身の変化や、中高年期を健康に過ごすための留意点を説明できる。			
高齢者のための社会的取り組み ・高齢者の健康と健康課題や保健、医療、福祉の連携				・高齢者の生活と健康に関する現状や健康課題、高齢社会に対応した保健・医療・福祉の連携について説明できる。			
保健制度とその活用 ・保健行政の役割と健康づくり ・保健サービスの活用				・保健行政の役割としくみ、保健サービスの内容とその活用方法について説明できる。			
医療制度とその活用 ・医療制度と医療保険のしくみ ・医療機関と医療サービスの活用				<ul style="list-style-type: none"> <li>医療保険のしくみや医療費が支払われるしくみを説明できる。</li> <li>医療機関の選び方や医療機関や医師から必要な情報をひきだすための質問事項を説明できる。</li> </ul>			
医薬品と健康 ・医薬品の種類、使い方、安全対策				・医薬品の役割を理解でき、正しく使うためのポイントをあげられる。			
さまざまな保健活動や対策 ・健康づくりのための活動・民間や国際機関の保健活				・人々の健康の保持増進をはかるために、どのような活動や対策が行われているか理解することができ			

動		る。
大気汚染と健康 ・大気汚染の原因や健康への影響		・大気汚染のさまざまな原因や健康への影響、原因物質について説明することができる。
水質汚濁・土壌汚染と健康 ・水質汚濁とその健康影響 ・土壌汚染とその健康影響 ・大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のかかわり		・水質汚濁のさまざまな原因や健康への影響、原因物質について説明することができる。 ・土壌汚染のさまざまな原因や健康への影響について説明できる。
健康被害の防止と環境対策 ・環境汚染の防止と改善 ・産業廃棄物の処理と健康		・環境汚染の防止・改善への対策をあげて、説明できる。
環境衛生活動のしくみと働き ・ごみ処理、上下水道整備		・ごみ処理や上下水道の問題点と対策を説明できる。
食品衛生活動のしくみと働き ・食品の安全性と行政の役割、衛生管理		・食品衛生管理のための対策を説明できる。
食品と環境の保健と私たち ・食品の安全や環境の保健と私たちの役割		・食品の安全性確保やごみによる環境汚染対策を例をあげて説明できる。
働くことと健康 ・働く人の健康問題		・職場の環境と働く人の健康問題について説明できる。
労働災害と健康 ・労働災害とその防止 ・安全管理と健康管理のしくみ		・労働災害や職業病の予防につて具体例をあげて説明することができる。
健康的な職業生活 ・職場や日常生活における取り組み		・職場の健康増進対策や日常生活での健康増進について説明できる。
評価の 観点と 方法	関心・意欲・態度	日頃の授業への取り組み状況
	思考・判断	日頃の授業への取り組み状況
	知識・理解	定期考査、ノート提出

令和4年度 富山県立福岡高等学校 シラバス

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2	対象学年 コース・類型	第2学年
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得し、生活課題を主体的に解決する態度を育成する。</li> <li>・家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的態度を育てる。</li> </ul>						
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)						
副教材	生活学 Navi 資料+成分表 2022 (実教出版)						
単元および学習内容				学習到達目標			
<家族・社会との共生> 第1章 自分らしい人生をつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達の視点と青年期の課題</li> <li>・人生をつくる</li> <li>・家族・家庭をみつめる</li> <li>・これからの家庭生活と社会</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ライフステージの特徴と課題について関心を持ち、自分を見つめ、生涯を見通した生活設計に関心を持つことができる。</li> <li>・家族の変遷と現代の家族の機能や特徴を理解し、これからの家庭生活と社会との関わりについて考えることができる。</li> </ul>			
第2章 子どもと共に育つ <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育つ力を知る</li> <li>・親として共に育つ</li> <li>・子どもとの触れ合いから学ぶ</li> <li>・これからの保育環境</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育つ力を理解するとともに、家族及び地域社会の果たす役割を認識し、子育ての意義の重要性について理解する。</li> <li>・子どもとの触れ合いを通して、発達や生活環境に関心を持ち、人々とのかかわりの中で育つ大切さを考えることができる。</li> <li>・子どもを取り巻く環境変化と子育てにおける課題に関心を持ち、課題解決について考えを深めることができる。</li> <li>・社会全体で子育てを支援する必要性、子どもの権利と福祉について理解し、関心を持つことができる。</li> </ul>			
第3章 高齢社会を生きる <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢期を理解する</li> <li>・高齢者の心身の特徴</li> <li>・これからの高齢社会</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢社会の現状と今日的課題を学び、高齢者に関心を持つことができる。</li> <li>・高齢者の心身の特徴を知り、高齢者を肯定的にとらえ、生活に関する課題の解決方法を考えることができる。</li> <li>・高齢者を支える仕組みを学び、高齢者の尊厳を保つ自立生活支援の在り方の必要性を理解できる。</li> </ul>			
第4章 共に生き、共に支える <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの生活と福祉</li> <li>・共に生きる</li> <li>・社会保障の考え方</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・一生を見通した福祉の必要性を理解できる。</li> <li>・共生社会に関心を持つとともに、社会の一員としての自覚を持ち、ボランティア活動や支え合う活動に積極的に関わることができる。</li> <li>・社会保障制度の理念や内容を学び、共生社会を実現するために必要な知識を身につけることができる。</li> </ul>			
<生活の自立> 第5章 食生活をつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活について考える</li> <li>・食事と栄養、食品</li> <li>・食生活の安全と衛生</li> <li>・生涯の健康を見通した食事計画</li> <li>・調理の基礎</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の食生活課題と食事の意義について理解し、改善向上のため知識・技術を習得し実践することができる。</li> <li>・栄養素の特徴を理解し、食生活に生かすことができる。</li> <li>・食品の選び方や保存の方法、食中毒に関する知識を習得し、安全で衛生的な食生活を実践することができる。</li> <li>・青年期の食生活の重要性を知るとともに、各ライフステージにおける栄養的特徴を理解し、適切な献立作成ができる。</li> </ul>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの食生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な調理技術を学び、日常食の献立作成・調理ができる。</li> <li>・食生活の変化や問題点を知り、食料自給率や環境負荷などつながっている課題について理解し、持続可能な食生活を営む力を養うことができる。</li> </ul>
第6章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の役割を考える</li> <li>・被服を入手し管理する</li> <li>・これからの衣生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の衣生活をもとに、品質表示や取り扱い絵表示の見方を知るとともに、被服材料、性能、管理を理解し、快適な衣生活や被服選択に生かすことができる。</li> <li>・衣服の購入から廃棄、環境とのかかわりなど、持続可能な衣生活の必要性を理解し、実践できる。</li> </ul>
第7章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住生活について考える</li> <li>・住生活の計画と選択</li> <li>・これからの住生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を通しての住居の機能や住空間の設計に関する基本的な知識を得て、快適な住生活を考察することができる。</li> <li>・災害と住居の関係について理解し、安全な住環境に関心を持つことができる。</li> <li>・多様な住まい方を知るとともに、住民参加のまちづくりについて関心を持つことができる。</li> </ul>
第8章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業生活を設計する</li> <li>・消費行動と意思決定</li> <li>・現代の消費社会</li> <li>・国民経済・国際経済と家庭の経済生活</li> <li>・消費者の権利と責任</li> <li>・これからの消費生活と環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的自立と職業設計の重要性について知り、自分の将来設計につなげることができる。</li> <li>・消費行動における意思決定について具体的な事例をふまえて主体的に考え、適切に判断することができる。</li> <li>・基本的な金融商品の特徴を学び、それを資産形成に活かすライフプランやリスクマネジメントに活用することができる。</li> <li>・国際化・複雑化している経済社会と家計の関係を学び、家計管理や経済計画の重要性が理解できる。</li> <li>・大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換の必要性を理解し、家庭生活と資源・環境とのかかわりについて考え、望ましい消費生活のあり方を提案し、工夫・実践することができる。</li> </ul>
<生活に生かそう>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームプロジェクトの実践と発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活上の課題を見出し、その解決に向けて科学的に探究し、計画をたて、実践し、その結果に反省・評価を加え、まとめ、発表する。発展的に生活課題に取り組むことができる。</li> </ul>
評価の 観点と 方法	関心・意欲・態度	学習確認プリント
	思考・判断・表現	ホームプロジェクトの計画・実施・発表、
	技能	実習、作品製作
	知識・理解	課題レポート、定期考査、授業態度